

元んしんぼんり



水仙

今	シュウ酸カルシウム結晶	—————(1)	おしらせ(前立腺がん検診)	—————(4)
回	検査情報(近縁のアレルゲンについて)	—————(2)	声	—————(4)
の	検査Q & A(B型肝炎ウイルスの感染予防効果)	—————(2)	メモ(施設内勉強会)	—————(4)
紙	センター紹介(自動染色装置オ・トステナーXL)	—————(3)	編集後記	—————(4)
面	ひろば(携帯電話の豆知識 - その3 -)	—————(3)	中綴じ(-病態へのアプローチ-)	

シュウ酸カルシウム結晶

シュウ酸カルシウム結晶は、健康な人にも認められ日常検査で最も多く見られる結晶の1つです。一般に臨床的意義は少ないとされていますが、尿路結石の組成としては最も多く結石症を示唆する所見となることがあります。またカルシウム代謝異常なども示唆する所見となり得ることもあります。

シュウ酸を生成するビタミンCなどを豊富に有している食物(トマト・ミカン類・ほうれん草・アスパラガス・チョコレート)の多量摂取後にシュウ酸カルシウム結晶が認められる事がよくあります。これは摂取されたシュウ酸と体内のカルシウムが結合し、尿中に溶解度の低いシュウ酸カルシウムとして排出され、結晶化すると考えられています。

形態は無色で屈折性のある正八面体構造が特徴的で一般的に酸性尿に出現しますが、アルカリ尿でも見られる事もあります。その他の形態にビスケット状・楕円状などの結晶も見られます。このような円形状の結晶は尿沈渣を鏡検する時に赤血球や真菌と誤認しやすいので注意を要します。この場合はシュウ酸カルシウム結晶が希塩酸に溶解する事からこれらの鑑別は可能です。



写真1 シュウ酸Ca結晶(正八面体と楕円形)

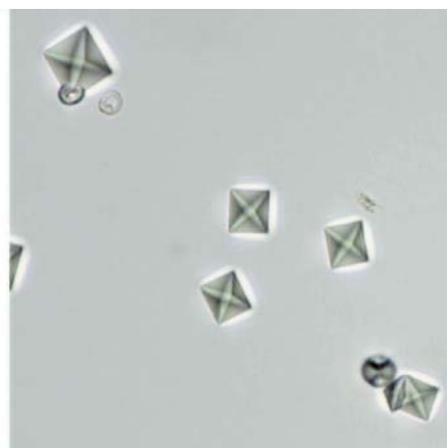


写真2 : シュウ酸Ca結晶(楕円形) : 赤血球



検査情報

近縁のアレルゲンについて

アレルギーの検査項目で、特定の項目が存在しない場合に、近縁のアレルゲンで測定をする場合があります。

よく問い合わせがある魚類のタイで説明します。



この様にタイはスズキ目の属する魚類となり、タイのアレルゲンが存在しないので同じスズキ目に属しアレルゲンの存在するアジ・サバ・マグロ(赤身の魚だけど)の3種類が近縁のアレルゲンとなります。

タイに対するアレルゲンを測定するのであれば、近縁のアレルゲンとして存在する3種類より選択して測定することになります。

しかし、あくまで近縁のアジ・サバ・マグロを測定しているので、タイに対する反応と必ずしも一致するとは限りません。(この場合参考値と考えるのが、良いと思われます)

またタイとマグロの関係をみて分かるように、白身の魚の近縁が必ずしも白身とは限らないようです。(赤身の魚に対しても同じことが言えると思います)

タイの様に近縁のアレルゲンが存在する場合は近縁のアレルゲンとして測定することができますが、近縁のアレルゲンの存在しない場合もありますので、まず検査項目の問い合わせをお願い致します。

近縁の存在しない場合は、測定出来ませんのでその場合はご了承下さい。

検査 Q & A



Q : B型肝炎ウイルスのワクチン接種後で抗体価は、定量値でどのくらいあれば感染予防効果があるのでしょうか。

A : アメリカのCDCの報告によれば、HBs抗体の最小感染防御量は10mIU/mlです。わが国では従来PHA法における24倍(16倍)を最小感染防御量としてきました。この抗体価に相当する定量値は、EIA法で30mIU/mlであったとする報告と70mIU/mlであったとする文献があり、当然結果の解釈も異なってしまいます。最近ではCLEIA法(Chemiluminescent Enzyme Immunoassay: 化学発光酵素免疫測定法)その他のEIA法が普及していますので、そろそろ新しい基準が必要です。実際には、CLEIA法で20mIU/ml以上であれば感染防御能があると考えてよいでしょう。5mIU/mlでも感染防御能があると言われておりますが、20mIU/ml以下ですと1年以内に低下してしまう可能性が高いので、年に1度は測定し必要に応じてワクチン接種による追加免疫が必要です。

室長 大塚 英樹



センターご紹介

自動染色装置（オートステナー XL）

今回は自動染色装置オートステナーXLの紹介です。

当検査センターではこの染色装置で細胞診検査のパパニコロウ染色行っております。お預かりした細胞診検査の婦人科の検体は標本をそのまま、尿、喀痰、体腔液などは検体処理を行って標本を作製してから、この装置にかけて染色を行っております。この装置の特色は1ラックに20枚の標本がセットでき、連続して11ラックまで染色を行えるスライドラック移動システムが導入されており、大量にまた短時間に処理ができることです。

現在、細胞診標本は1日に約270枚染色を行った後に、それぞれの検査材料における細胞を顕微鏡下で細胞検査士が慎重に検査を行っております。細胞診検査の大きな目的に異常細胞のスクリーニングがありますが、精度を保つために毎日同じ条件で細胞を観察するためにはこの自動染色装置は欠かせないものとなっております。



ひろば

携帯電話の豆知識 - その3 -



災害時優先電話は、災害などの際に優先的に通話がつながる電話回線を提供するサービスです、事前の申請、審査が必要で、主に官公庁や警察、ライフラインを提供する事業者提供されています。

<災害時優先電話（携帯電話）について>

携帯電話各社は、携帯電話（法人名義）を「災害時優先携帯電話」として登録申請を受付けています。この優先携帯電話は固定電話の優先電話同様、災害等により被災地へ電話が殺到した場合、一般携帯電話はかかりにくくなりますが、「災害時優先電話」から発信された電話は優先的に接続する仕組みになっています。

申請にあたっては、所有されている携帯電話会社の受付窓口へ詳細を確認のうえご申請下さい。

<各携帯電話会社の問い合わせ窓口連絡先>

[ドコモ] ドコモアイ九州(株) TEL 738 - 9830（営業企画担当）

[au] KDDI(株) TEL 577 - 3530（モバイルソリューション）

福岡市医師会では、大規模災害に備えモバイル一斉連絡システム（西野モバイル）の登録促進中です。詳細につきましては、電算課 TEL 852 - 1505迄お尋ね下さい。



おしらせ 前立腺がん検診実施について

平成18年2月にミニドックと併用して標記検診が次のとおり実施されます。

- 1) 実施期間：平成18年2月1日～2月28日
- 2) 対象者：福岡市に居住する55歳以上の男性で希望者
- 3) 自己負担：1,000円（但し、一部免除者あり）
- 4) 検体提出：福岡市医師会臨床検査センターへご提出下さい。

声



昔の長野産婦人科小児科の場所に薬院大通センタービルが建設され、そこに婦人科クリニックをオープンしています。検査はすべて医師会検査センターに依頼しお世話になっています。

1日2回の定期回収以外に夕方遅くの臨時収集を時々お願いしますが、快く受けてくださり助かっています。

当クリニックへは勤務後に受診されるOLの方も多く、時間外の検査となりますが今後ともよろしくお願いたします。

“えんしんぶんり”は毎号勉強させてもらっています。表紙の写真と解説は細菌学の講義を思い出します。忘れていた事も多くまた新しい知識も得られこの部分をファイリングしています。そして“臨床と検査”は他科の病気を理解しやすくしっかり読んでいます。

クリニックなので婦人科よろず相談役を目指しており、雑学収集に“えんしんぶんり”が役立ちます。これからも色々とは学ばせてもらいます。

医)長野病院ウイメンズヘルスケア薬院 院長 永瀬悦子

メモ

施設内勉強会	臨床検査技師・営業担当者向（参加要予約）			
「非B・非C型肝炎ウイルス」	2月21日(火)	14:00	於)カンファレンス室	
「症例検討」	2月23日(木)	16:00	於)カンファレンス室	
会議				
臨床検査センター運営会議	1月31日(火)	20:10	於)第一会議室	

編集後記 新年あけましておめでとうございます。本誌も6年目に入り、今年も皆様方へ充実した情報や資料をご提供いたします。日常診療のドクターナビとしてお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

表紙の水仙について...ギリシャ神話では、ナルキッソスの化身といわれています。美青年のナルキッソスは、その美貌からたくさんの乙女たちの心を虜にしましたが、自分からは決して人を愛そうとはしませんでした。そこで復讐の女神ネメシスは怒り「人を愛せない者は自分自身を愛すればいい」と呪いをかけました。たちまちナルキッソスは水面に映った自分の姿に恋をし、その恋の苦しみで食事ものを通らなくなり、だんだんやせ細って1本の白い水仙になったといわれています。このような話から、「うぬぼれ」「自己愛」という花言葉が生まれました。日本に入ってきたのは平安末期といわれています。

原産地：スペイン、ポルトガル、北アフリカなどの地中海沿岸 花言葉：うぬぼれ、自己愛、自尊心
開花時期：10月～4月 最盛期：12月～2月 花色：白・黄、黄・オレンジなど
花持ち：2～5日程度

編集委員 喜久正和 大塚英樹 椎葉 満 井原慎治 奥野隆子 右田道男

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

福岡市医師会臨床検査センター TEL(092-852-1506) FAX(092-852-1510)
http://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html E-mail: fma@city.fukuoka.med.or.jp